



## 2023年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年1月6日

上場会社名 株式会社 マルゼン

上場取引所 東

コード番号 5982 URL <http://www.maruzen-kitchen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 恵一

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 萬實 房男

TEL 03-5603-7755

四半期報告書提出予定日 2023年1月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年2月期第3四半期の連結業績(2022年3月1日～2022年11月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年2月期第3四半期	43,310	8.7	3,074	0.6	3,460	2.2	2,376	3.1
2022年2月期第3四半期	39,846	17.5	3,092	17.4	3,385	17.3	2,305	16.9

(注) 包括利益 2023年2月期第3四半期 2,412百万円 (4.3%) 2022年2月期第3四半期 2,313百万円 (21.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年2月期第3四半期	146.66	
2022年2月期第3四半期	142.38	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年2月期第3四半期	65,627	42,934	65.4	2,648.99
2022年2月期	61,755	41,471	67.2	2,560.68

(参考) 自己資本 2023年2月期第3四半期 42,934百万円 2022年2月期 41,471百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期		15.00		35.00	50.00
2023年2月期		25.00			
2023年2月期(予想)				25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年2月期の連結業績予想(2022年3月1日～2023年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,500	2.5	3,725	2.7	4,120	2.7	2,800	2.6	172.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年2月期3Q	19,780,000 株	2022年2月期	19,780,000 株
期末自己株式数	2023年2月期3Q	3,572,034 株	2022年2月期	3,584,534 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年2月期3Q	16,202,421 株	2022年2月期3Q	16,189,937 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、〔添付資料〕P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(会計上の見積りの変更) .....	7
(追加情報) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年3月1日～2022年11月30日）における我が国の経済は、新型コロナウイルスの感染状況については一時改善傾向が見られた一方、新たな変異株の流行もあり、依然として予断を許さない状況が続きました。また、ロシア・ウクライナ情勢による資源価格の高騰や、急激な円安などにより先行き不透明な状況が続いています。当社グループの主要顧客の一つである外食産業におきましては、新型コロナ感染者数が拡大した時期においても行動規制が出されなかったこと等により客足の回復傾向が見られますが、原材料価格や光熱費の高騰、人件費の上昇などにより業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。

このような状況の中、当第3四半期連結累計期間の売上高は、433億10百万円（前年同期比8.7%増）、営業利益は30億74百万円（同0.6%減）、経常利益は34億60百万円（同2.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては23億76百万円（同3.1%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ①業務用厨房部門

主たる事業の業務用厨房部門では、当社グループの多岐にわたる販売先業種・業態のお客様に対し、業界随一の豊富で多種多様なオリジナル製品の中で、高品質・高機能・低価格で安全性も高い厨房機器や、省エネ、作業環境の向上などSDGsにも貢献する厨房機器の提供、またサービスメンテナンス体制の強化等に積極的に取り組んだ結果、売上は好調に推移しました。一方、ステンレスを始めとする原資材価格の急ピッチな上昇のため利益率は低下しました。これに対し、コストダウン等の企業努力を重ねておりますが、残念ながら全ての上昇を吸収することは難しいため、2023年1月から製品価格の値上げを実施することを含め、利益の確保に取り組んでまいります。

以上の結果、売上高は412億4百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益は33億22百万円（同1.6%増）となりました。

#### ②大型製パン機械部門

大型製パン機械部門では、国内製パンメーカーや異業種の各種食品工場に向けて拡販に取り組みましたが、原資材価格の急激な上昇を吸収できず、その結果、売上高は16億86百万円（前年同期比22.0%増）、営業損失は6百万円（前年同期は営業利益17百万円）となりました。

#### ③ビル賃貸部門

5物件を有する土地と資金の有効活用を目的としたビル賃貸部門の業績は計画通り推移し、売上高は4億42百万円（前年同期比1.3%減）、営業利益は3億8百万円（同3.4%減）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

資産の部は、現金及び預金および棚卸資産が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ38億71百万円増加の656億27百万円となりました。

負債の部は、売上高の増加に伴い電子記録債務が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ24億8百万円増加の226億93百万円となりました。

純資産の部は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したこと等で、前連結会計年度末に比べ14億63百万円増加し429億34百万円となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年2月期の連結業績予想につきましては、2022年4月8日付公表の「2022年2月期 決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	29,097,672	31,180,429
受取手形及び売掛金	8,237,785	8,887,420
商品及び製品	2,840,934	3,314,961
仕掛品	1,305,541	1,485,127
原材料及び貯蔵品	1,252,361	1,627,058
その他	284,838	404,008
貸倒引当金	△5,514	△5,770
流動資産合計	43,013,620	46,893,235
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,886,980	18,220,461
減価償却累計額	△11,304,876	△11,598,121
建物及び構築物 (純額)	6,582,104	6,622,340
土地	7,892,002	7,892,002
建設仮勘定	31,849	—
その他	9,273,526	9,364,246
減価償却累計額	△7,875,275	△7,980,948
その他 (純額)	1,398,251	1,383,298
有形固定資産合計	15,904,207	15,897,640
無形固定資産	26,203	18,643
投資その他の資産	2,811,841	2,818,206
固定資産合計	18,742,251	18,734,490
資産合計	61,755,872	65,627,726

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,652,354	4,725,139
電子記録債務	8,653,942	10,839,748
未払法人税等	994,324	336,638
賞与引当金	657,000	327,500
役員賞与引当金	57,572	43,179
その他	2,513,999	3,629,592
流動負債合計	17,529,192	19,901,798
固定負債		
退職給付に係る負債	1,870,094	1,873,758
その他	885,210	917,465
固定負債合計	2,755,305	2,791,224
負債合計	20,284,497	22,693,022
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,164,950	3,164,950
資本剰余金	2,522,326	2,533,296
利益剰余金	42,490,381	43,894,523
自己株式	△3,288,319	△3,276,852
株主資本合計	44,889,338	46,315,917
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,133,957	1,175,793
土地再評価差額金	△4,556,460	△4,556,460
退職給付に係る調整累計額	4,539	△545
その他の包括利益累計額合計	△3,417,963	△3,381,213
純資産合計	41,471,374	42,934,703
負債純資産合計	61,755,872	65,627,726

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
売上高	39,846,370	43,310,162
売上原価	28,879,891	32,172,126
売上総利益	10,966,478	11,138,036
販売費及び一般管理費	7,874,062	8,063,627
営業利益	3,092,416	3,074,408
営業外収益		
受取利息	146	168
受取配当金	11,696	15,587
固定資産賃貸料	18,238	18,685
仕入割引	97,380	115,185
作業くず売却収入	143,585	196,429
その他	25,648	44,950
営業外収益合計	296,697	391,006
営業外費用		
売上割引	3,614	5,043
その他	273	26
営業外費用合計	3,888	5,070
経常利益	3,385,224	3,460,345
特別利益		
固定資産売却益	1,104	5,346
特別利益合計	1,104	5,346
特別損失		
固定資産売却損	469	—
固定資産除却損	183	304
投資有価証券評価損	—	14,200
特別損失合計	652	14,504
税金等調整前四半期純利益	3,385,677	3,451,188
法人税、住民税及び事業税	1,016,043	981,595
法人税等調整額	64,502	93,411
法人税等合計	1,080,546	1,075,006
四半期純利益	2,305,130	2,376,182
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,305,130	2,376,182

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
四半期純利益	2,305,130	2,376,182
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,896	41,835
退職給付に係る調整額	△5,478	△5,085
その他の包括利益合計	8,418	36,750
四半期包括利益	2,313,549	2,412,932
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,313,549	2,412,932
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取れると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の「利益剰余金の当期首残高」および「損益」のそれぞれに与える影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っていません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項および「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響による会計上の見積り)

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度の連結財務諸表作成に使用した、新型コロナウイルス感染症の影響による会計上の見積りについては、今後の新型コロナウイルス感染症の広がり方や収束時期等を含めた仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	業務用厨房機 器製造販売業	大型製パン機 械製造販売業	ビル賃貸業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	38,029,949	1,367,973	448,447	39,846,370	—	39,846,370
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	14,494	—	14,494	△14,494	—
計	38,029,949	1,382,467	448,447	39,860,864	△14,494	39,846,370
セグメント利益	3,271,858	17,548	319,624	3,609,031	△516,615	3,092,416

(注) 1. セグメント利益の調整額△516,615千円には、セグメント間取引消去90,000千円および各報告セグメントに配分していない全社費用△606,615千円が含まれております。なお、全社費用の主な内容については、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	業務用厨房機 器製造販売業	大型製パン機 械製造販売業	ビル賃貸業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	41,204,910	1,662,581	442,670	43,310,162	—	43,310,162
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	24,016	—	24,016	△24,016	—
計	41,204,910	1,686,598	442,670	43,334,179	△24,016	43,310,162
セグメント利益又は損失 (△)	3,322,779	△6,262	308,751	3,625,268	△550,860	3,074,408

(注) 1. セグメント利益の調整額△550,860千円には、セグメント間取引消去90,000千円および各報告セグメントに配分していない全社費用△640,860千円が含まれております。なお、全社費用の主な内容については、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 当第3四半期連結会計期間より、従来「ベーカリー機器製造販売業」と表示していた報告セグメントの名称を、事業内容を鑑みて「大型製パン機械製造販売業」に変更しております。

なお、当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報等の区分や数値に与える影響はありません。

また、前第3四半期連結累計期間の報告セグメントについても、変更後の名称で表示しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。